

## 南アフリカ、新型肺炎感染拡大で二進も三進もいかない状況に

～感染拡大で行動制限再開を余儀なくされ、財政悪化による格下げリスクもくすぶる厳しい状況も続く～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
 主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522)

### (要旨)

- 新型コロナウイルスは感染拡大の中心が新興国にシフトするなど事態収束がみえない状況にある。南アフリカでは当初は感染封じ込めに向け強硬策が採られたが、景気減速懸念を受けて政府は5月以降行動制限を緩和した。さらに、財政・金融政策の両面で景気刺激を図るも、主要格付機関が相次ぎ格下げを実施した。行動制限緩和で企業マインドは底打ちするも、足下の景気は依然として厳しい状況にあると判断出来る。
- 他方、行動制限緩和により新型肺炎の感染が拡大して地方での感染拡大は医療崩壊が懸念され、政府は行動制限の再開を余儀なくされている。感染拡大による景気減速は財政状況の悪化を招き、追加格下げリスクを高める懸念もある。足下の通貨ランド相場は底堅いが、国際金融市場の活況による投機マネーが影響している可能性がある。その意味では、南アフリカを取り巻く状況は引き続き「綱渡り」が続くと見込まれる。

新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) を巡っては、足下で感染拡大の中心地が新興国にシフトしており、医療インフラが脆弱な上、季節が冬に移行している南半球での感染拡大は事態収束を困難にすることが懸念される。南アフリカでは3月初めに新型肺炎の感染者が確認され、その後の感染拡大を受けて政府は非常事態宣言の発令に踏み切るとともに、感染封じ込めに向けて都市封鎖措置や国境封鎖に踏み切るなど『強硬策』が採られた。昨年以降の同国経済は、慢性的な電力不足を理由とする計画停電実施が幅広く経済活動の足かせとなる展開が続いてきたが、都市封鎖措置や国境封鎖を受けて全般的に経済活動が一段と制約される事態となったことで企業マインドに大きく下押し圧力が掛かった。実質GDPは今年1-3月(前期比年率▲1.99%)まで3四半期連続のマイナス成長となるなど景気後退局面(リセッション)入りしているが、4-6月はマイナス幅の拡大も予想される事態に直面している。さらに、3月には米格付機関のムーディーズ・インベスターズ・サービスが格下げを実施し、主要3社がいずれも同国を「投資不適格(ジャンク級)」とするなど金融市場での信認低下が懸念される動きがみられた(詳細は3月30日付レポート「[南アフリカ、新型肺炎のダメ押しで「ジャンク級」に転落](#)」をご参照下さい)。なお、その後は新型肺炎を巡る状況は改善にはほど遠い状況が続いているものの、都市封鎖措置を受けた景気減速懸念の高まりに対応すべく、政府は5月以

図1 製造業 PMI の推移



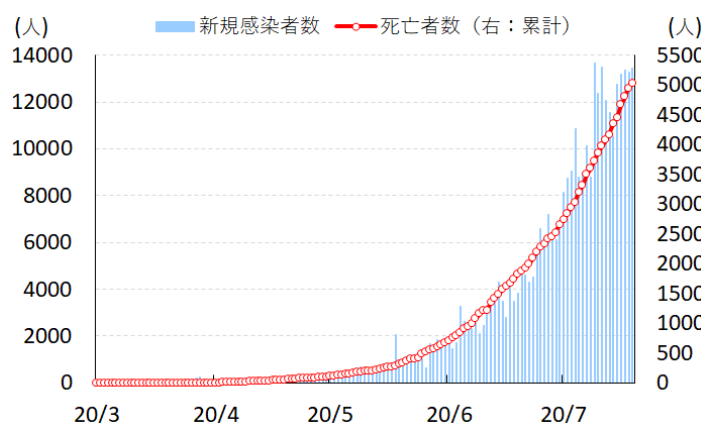
(出所) IHS Markit より第一生命経済研究所作成

降警戒レベルの引き下げと一部の産業を対象に事業活動の再開を認めるなど一転して経済活動の正常化に大きく舵を切った。さらに、政府は総額 5000 億ランド（GDP 比 9.8%）規模の景気刺激策を発表したほか、中銀も 4 月の緊急利下げ実施に加えて翌 5 月にも追加利下げを実施し、足下の政策金利は 3.75% と過去最低水準を更新するなど、財政・金融政策の両面で景気下支えを図る姿勢を鮮明にしている。ただし、政府による景気刺激策発表を受けて主要格付機関であるスタンダード・アンド・プアーズ・グローバル・レーティングとフィッチ・レーティングスが相次いでマクロ経済及び財政状況の急激な悪化を理由に格下げを実施するなど、『格下げドミノ』とも呼べる事態に直面している（詳細は 5 月 1 日付レポート「[南アフリカ、新型肺炎を理由とする「格下げドミノ」に直面](#)」をご参照下さい）。他方、政府は先月上旬以降に都市封鎖措置の段階的解除に動いたことで、主要産業である鉱業部門や製造業でフル稼働が可能になっているほか、中旬には行動制限を一段と緩和しており、5 月に大きく低下した企業マインドは底入れするなど『最悪期』を過ぎつつあるが、依然として好不況の分かれ目である水準を下回るなど厳しい状況が続いている。

他方、経済活動の正常化に舵を切ったことを受けて、その後の新型肺炎の感染者数は拡大傾向を強めており、足下では累計の感染者数が 36 万人を上回るなど、米国、ブラジル、インド、ロシアに次いで世界で 5 番目の水準に達している。なお、同国はサブサハラ諸国のなかでは医療インフラが比較的整備されており、現時点における累計の死亡者数は 5000 人程度であるなど感染者数に対して比較的少規模に抑えられているとみられる。

しかし、足下では罹患者数が回復者数を上回るペースで拡大する事態となっているほか、感染のピークはまだ先に訪れることを勘案すれば病床数が不足状態に陥る可能性が高まっている。さらに、当初の段階では最大都市ヨハネスブルクなど大都市部が感染拡大の中心地であったものの、足下では感染拡大の動きが地方部に広がり

図 2 新型肺炎の新規感染者数及び死亡者数(累計)の推移



(出所) Refinitiv より第一生命経済研究所作成

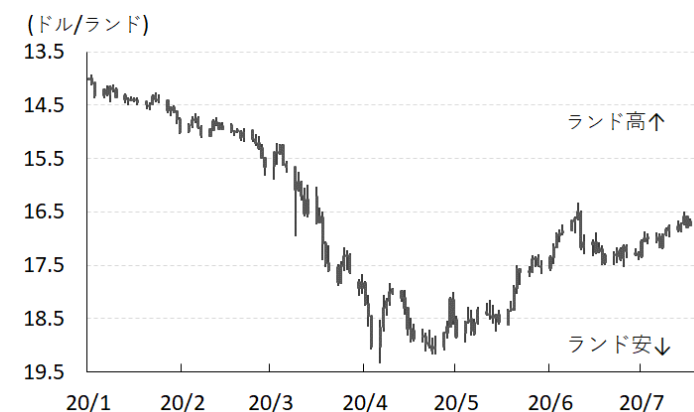
せており、相対的に医療インフラが脆弱な地方部での感染拡大は『医療崩壊』を通じて事態収束を困難にするなど新たな懸念も高まっている。さらに、WHO（世界保健機構）は同国での新型肺炎の感染者数急増の動きについて「南アフリカでの動きは不運にも前兆かもしれない、他のアフリカ諸国で起こることへの警告かもしれない」とした上で、「他のアフリカ諸国の感染者数は依然小規模だが、感染者数は加速するなど極めて慎重な注視が必要である」との見方を示すなど、サブサハラ地域に伝播する可能性に警鐘を鳴らす姿勢をみせている。こうした事態を受けて、政府は夜間の外出禁止措置を再開したほか、医療現場への負担軽減を図ることを理由に酒類の販売禁止を再開するなど行動制限を再開せざるを得ない事態となっている。なお、政府及び中銀は財政、金融政策を通じて景気下支えを図っているものの、仮に今後も新型肺炎の感染拡大の動きが一段と広がればそれに伴い経済活動が制約され、結果的に景気に下押し圧力が掛かる展開が続くことも懸念される。同国の昨年度末（今年 3 月末）時点の公的債務残

高はGDP比 64.2%と新興国のなかでは比較的高水準である上、上述のように政府は巨額の財政出動に動く方針を示したことで先行きの債務水準が大きく膨れ上がる可能性も懸念されるなか、主要格付機関はいずれも将来的な追加格下げの可能性を示唆する動きをみせるなど政策の舵取りは難しさを増している。足下の国際金融市場は全世界的な金融緩和を背景とする『カネ余り』に加え、主要国での経済活動再開による世界経済の回復期待も追い風に活況を呈する

動きをみせており、同国については国際商品市況の底入れの動きを追い風に通貨ランド相場は底堅く推移している。ただし、主要格付機関がいずれも同国を「投資不適格」とするなど長期資金が流入しにくい環境にあるなど、このところのランド相場の堅調さは国際金融市場の活況を背景とする投機マネーの活発化が影響していることを勘案すれば、外部環境次第の面は否めない。仮に主要国での経済活動の正常化を背景に世界経済の回復が進めば、国際商品市況に押し上げ圧力が掛かることで『資源国』である同国経済にとっては追い風になることは期待される。一方、国内での新型コロナウイルス感染拡大を受けて景気に一段と下押し圧力が掛かれば、そのことが財政状況の一層の悪化を招くとともに格下げリスクを高めるなど投機マネーの流出を招く新たな材料となる可能性にも注意が必要である。その意味では、南アフリカを取り巻く状況は引き続き『綱渡り』が続くと判断出来よう。

以上

図3 ランド相場(対ドル)の推移



(出所)Refinitiv より第一生命経済研究所作成

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。